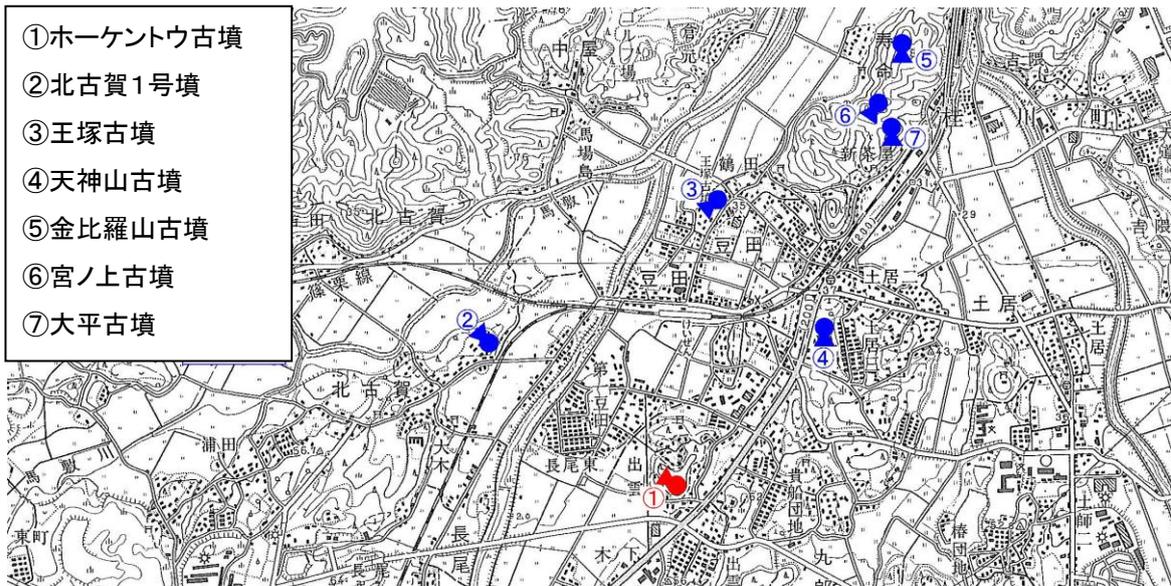


## 企画展「ホークントウ古墳発掘速報展」

ホークントウ古墳は、飯塚市平塚に所在する古墳時代後期の前方後円墳です。周辺には当古墳を含め王塚古墳・天神山古墳（いずれも桂川町所在）といった前方後円墳が7基も集中して分布し、古墳時代を通して首長墳が継続的に築造された地域として昔から注目されてきました。さらに、古墳時代後期の当地域には、『日本書紀』に記された「筑紫君磐井の乱（527～528年）」、その後の「穂波屯倉（ヤマト王権の政治的・軍事的拠点）」の設置と、この地域の政治体制が大きく変容した時代でもありました。

当時のこの地域の政治体制の変化を知り得る手がかりのひとつが、首長墓として築造された前方後円墳であり、ホークントウ古墳も古代の穂波地域を知る上でその重要性は非常に高いと考えられます。

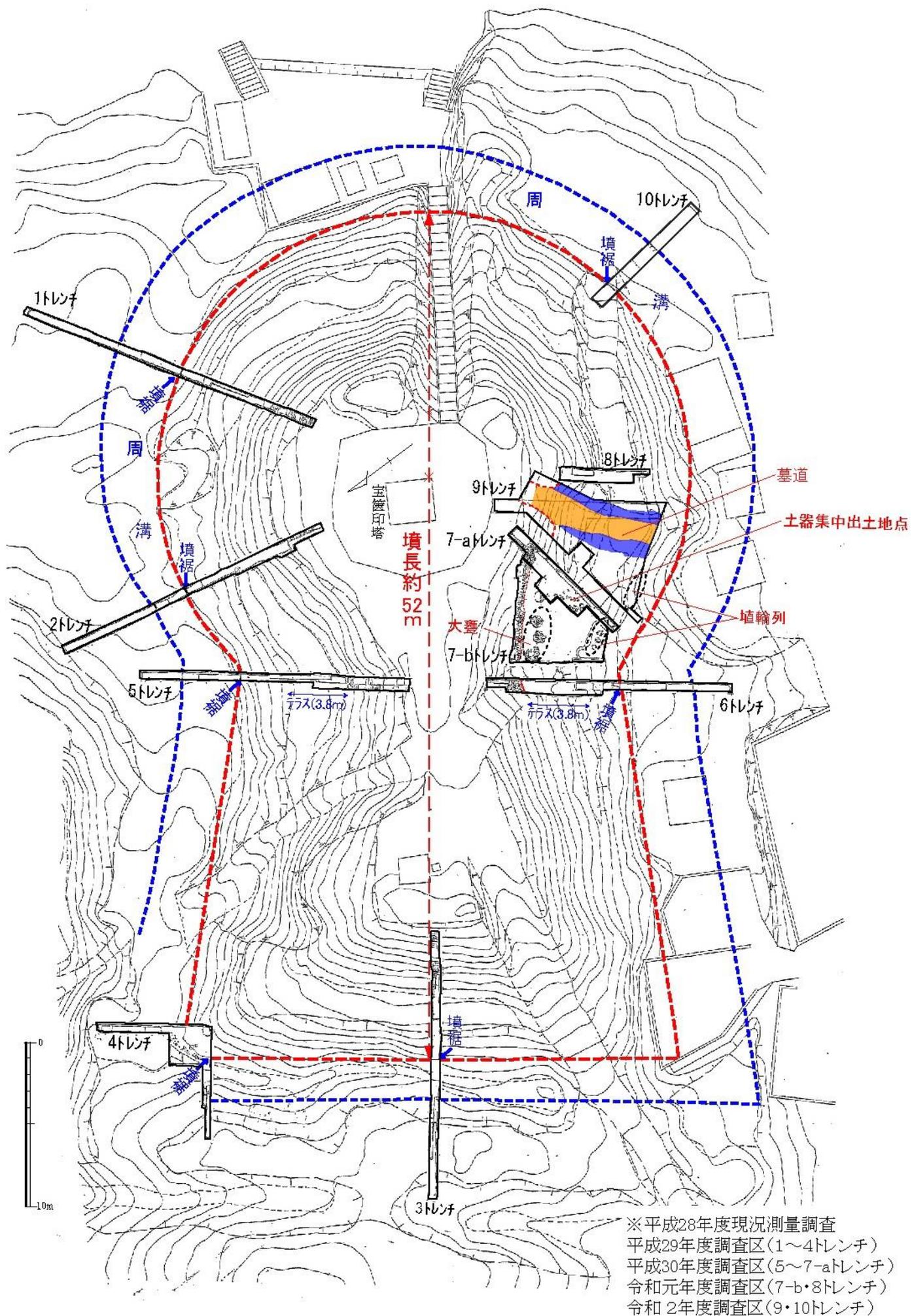
ホークントウ古墳については、これまで未調査であったため広く一般には知られていませんでした。そのような中、飯塚市教育委員会では当古墳を市内の重要遺跡と位置付け、平成28年度より調査を開始しました。これまでの調査によって、当古墳の規模・築造時期などが少しずつ明らかとなってきています。



穂波川上流域の前方後円墳分布図

### これまでの調査成果

- 規模………墳長約 52m（後円部径 32m、前方部幅推定約 30m）の前方後円墳
- 周溝………幅約 2.5～4.5m、深さ 0.4m程度の周溝が前方後円墳形にめぐる
- 墳丘………前方部・後円部ともに2段。下段（1段目）は地山成形と盛土で築かれ、上段（2段目）は盛土で外表面に葺石を有していたと推定される。上下段間のテラスと墳頂に円筒埴輪が立てられていたことが分かりました。
- 埋葬施設…今回の調査で墓道が確認され、埋葬施設は横穴式石室で、その開口部は南西方向であることが明らかとなりました。墓道の調査により、少なくとも2回の埋葬がおこなわれたことが明らかとなりました。
- 築造時期…6世紀前半頃と推定



ホーケントウ古墳調査区位置図(1/300)